

2026年2月25日  
メディアブリーフィング用資料

# 海外女子サッカーリーグビジネス 調査・分析レポート（フットボール領域）

2026年2月25日

WOMEN EMPOWERMENT LEAGUE

SKYLIGHT Sports

# はじめに

世界の女子サッカーは今、かつてない歴史的な転換期を迎えている。従来のアマチュアリズムや社会貢献活動としての枠組みを超え、巨額の投資を伴う持続可能な「ビジネス」としての成長が急速に進展している。特に欧州諸国を中心としたプロリーグの確立や、放映権料・スポンサー収入の増大は、競技レベルと市場価値を飛躍的に向上させている。

こうした市場の拡大に伴い、世界規模で優秀な人材の獲得競争が激化している。かつて2011年FIFA女子ワールドカップで世界の頂点に立った日本においても、現在では代表選手の多くが欧州や米国のトップリーグへ活動拠点を移しており、国内リーグの魅力向上や国際競争力の維持が喫緊の課題となっている。

そこで本レポートでは、女子サッカーを牽引する主要4か国の詳細な分析を通じ、日本との差や国際移籍市場の動向を詳らかにする。また、各国のリーグ運営や育成体系、投資環境といった制度的背景を深く洞察することで、日本が今後目指すべき成長の方向性への示唆を得ることを目的とする。

## 調査手法

### 1. 分析対象

本レポートでは次の4か国のリーグ、「NWSL（アメリカ）」、「Women's Super League（イングランド）」、「Liga F（スペイン）」、「Frauen-Bundesliga（ドイツ）」を中心に分析を実施。比較対象として「WEリーグ（日本）」の情報も一部箇所で掲載。

### 2. データ出典

各種公式発表資料、業界レポート、クラブ・リーグの財務報告書、インタビュー、ニュースメディア、独自調査結果に基づくものである。

本レポートの調査・分析は2025年11月～2025年12月に実施。定量的データ分析に加え、関係者ヒアリングに基づく定性的なインサイトも含んでいる。

### 3. 前提条件

本レポート内の為替換算は、特に断りのない限り、2025年1月から11月までの平均レート（USD = 152.8円、EUR = 169.0円、GBP = 196.0円）を用いている。

### 4. 用語

本レポートでは、便宜上、一般に男性選手を中心に構成されているサッカーの競技環境・リーグ・大会を「男子サッカー」と表記する。ただし、これらの多くは制度上、必ずしも女性の参加を明示的に禁じているわけではなく、「男子サッカー」という用語は、社会的通念および実態に基づいた記述上の分類であることをご了承ください。

# 目次

---

1. 調査概要
  - 1-1 本調査のスコープ
  - 1-2 本調査の目的
  - 1-3 調査対象リーグ
2. 各国のリーグ制度比較
  - 2-1 選手の最低年俸
  - 2-2 サラリーキャップ制度
  - 2-3 育成制度
  - 2-4 【詳細データ】：選手契約・待遇に関する制度
  - 2-5 【詳細データ】：チーム編成に関する制度
  - 2-6 【詳細データ】：育成に関する制度
  - 2-7 【詳細データ】：コーチングスタッフに関する制度
3. 各国のリーグ・クラブの経営実態
  - 3-1 世界と日本との差
  - 3-2 自国選手の海外流出問題
  - 3-3 トレーニング施設への投資状況
4. 国際移籍市場のトレンド
  - 4-1 移籍市場の概況
  - 4-2 主要国の動向
  - 4-3 日本クラブにとっての機会
  - 4-4 高額事例のトレンド
5. 成長を加速させる投資エコシステム
  - 5-1 リーグ・クラブへの投資スキーム
  - 5-2 現在の投資トレンドと主なプレーヤー
6. 参考情報

# 1. 調査概要

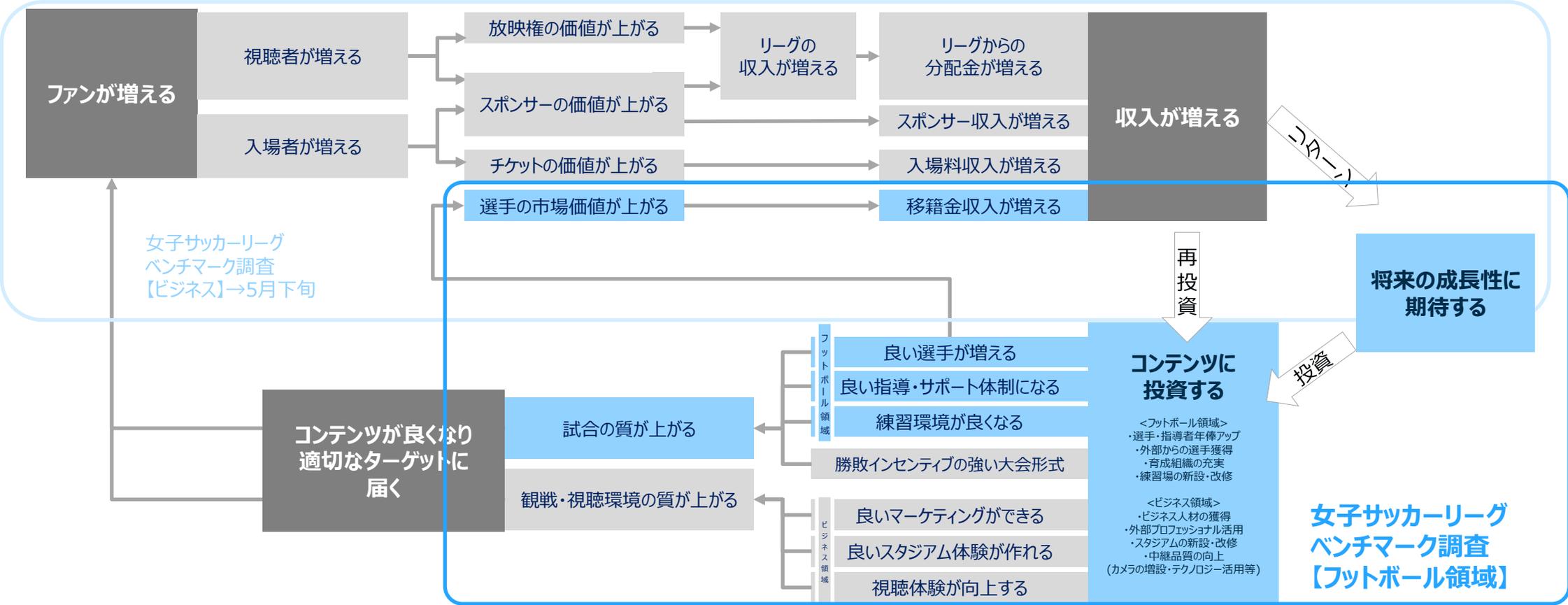
**EVOLVING  
SPORTS  
INTO  
INDUSTRY**

**SKYLIGHT**  
Sports

# 1

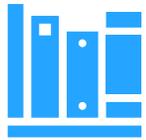
## 調査スコープ： 価値の源泉である「フットボール領域」を調査・分析

- 本レポートは、価値創出の源泉である「フットボール領域」に焦点を当て、各国の強化ポリシーや取り組みを明らかにすることを目指す。また、現在欧米の女子サッカーで行われているフットボール領域の取り組みは、女子サッカー市場の将来性を見越した様々な投資によって成り立っているため、この実態についても調査を行う。



## 制度と実態、市場環境を把握し、国内女子サッカー成長の視座を得る

- 本調査は、欧米諸国の最新動向をベンチマークし、国内女子サッカーリーグの発展につなげることを目的とする。  
「制度事例」、「欧米主要国と日本のギャップ」、「国際移籍トレンド」の分析を通じ、リーグ・クラブの成長戦略に向けた多角的な視座を得ることを目的とする。

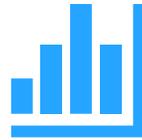


### ①制度設計の最適化

リーグ運営の参考となる  
他国事例の収集



各国のリーグが採用している「サラリーキャップ」や「ホームグロウン制度」、「最低年俸規定」などの具体的なルールを収集。競技力向上（強化）とビジネス的な持続可能性（経営）を、どのような制度設計で両立させているかを分析し、国内への適用可能性を探る。



### ②ギャップ分析

欧米主要国と日本クラブにおける  
「現在地」の差の把握



単なる競技レベルの比較にとどまらず、事業規模、選手への報酬水準、およびハード（専用スタジアムやクラブハウス）への投資状況を比較。世界トップ基準と日本の現状との間にある「埋めるべき差」を、定量的・定性的なデータを用いて明確にする。



### ③市場環境の理解

クラブ経営に影響を与える  
国際移籍トレンドの構造把握



年々市場規模が拡大する女子サッカーの「国際移籍市場」のメカニズムを解明する。主要な「買い手市場（獲得国）」と「売り手市場（供給国）」の関係性や、移籍金のトレンドを把握することで、日本クラブが取るべきポジションや収益化の機会を検討する。

## 調査対象リーグ： 欧米主要4か国のトップリーグを調査・分析

- 調査対象は、世界の女子サッカー界を牽引する主要4か国（アメリカ・イングランド・スペイン・ドイツ）の1部リーグとする。  
なお、本スコープは2025年5月に実施した「ビジネス環境調査」の対象国と同一であり、定点観測としての整合性を担保している。

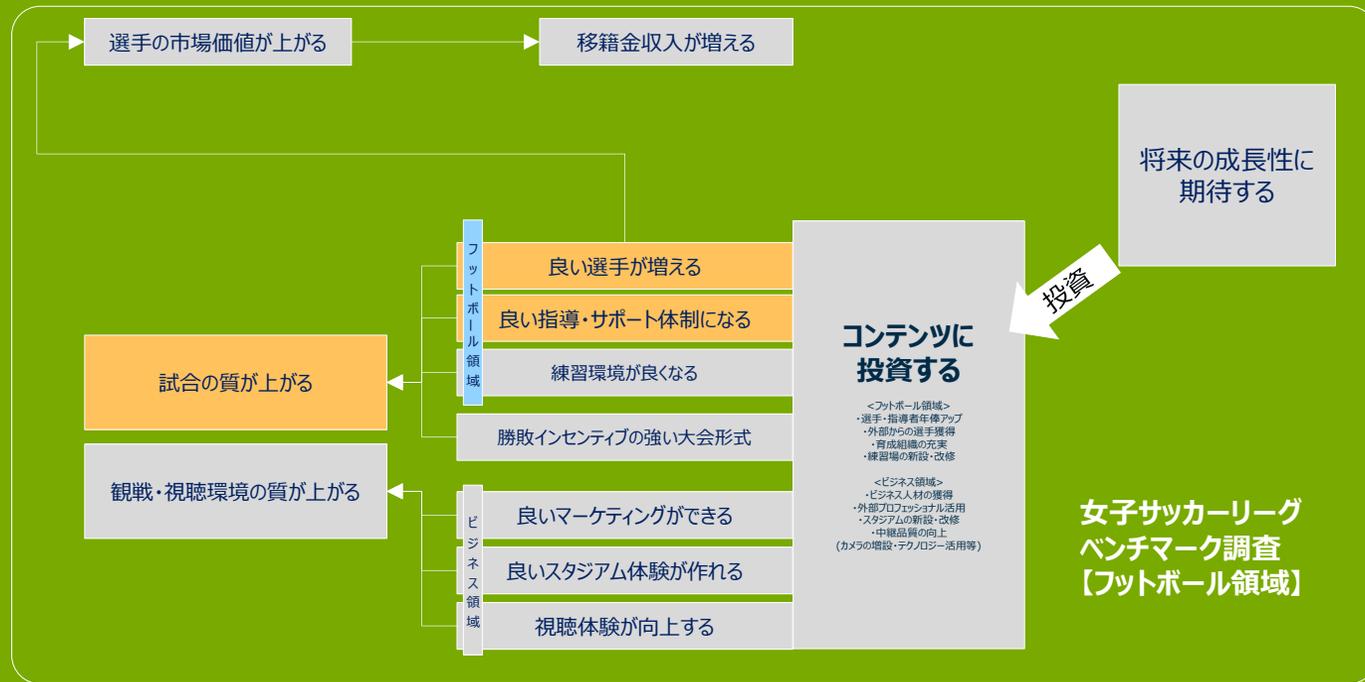
対象リーグ	リーグランキング*1	FIFAランキング(代表チーム) *2
アメリカ NWSL	1位	2位
イングランド WSL	2位	4位
スペイン Liga F	3位	1位
ドイツ Frauen-Bundesliga	4位	3位

\*1 Opta Power Rankings 2025年12月22日時点

\*2 FIFA Rankings 2025年12月11日時点

## 2. 各国のリーグ制度調査

競技の質的向上を実現する上で、選手およびスタッフへの投資は不可欠である。本章では、対象リーグにおける最低年俸規定、サラリーキャップ制度、および育成システムの調査・分析を通じ、各リーグがフットボールの価値を最大化するために採用している戦略的アプローチを考察する。



EVOLVING  
SPORTS  
INTO  
INDUSTRY

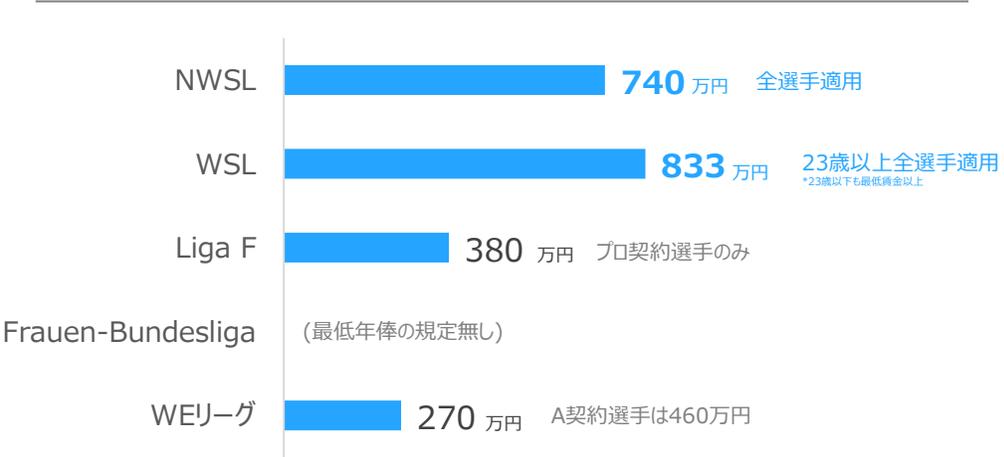
SKYLIGHT  
Sports

# 1

## 選手の最低年俵： NWSL・WSLは全選手がサッカーに専念できる水準に到達

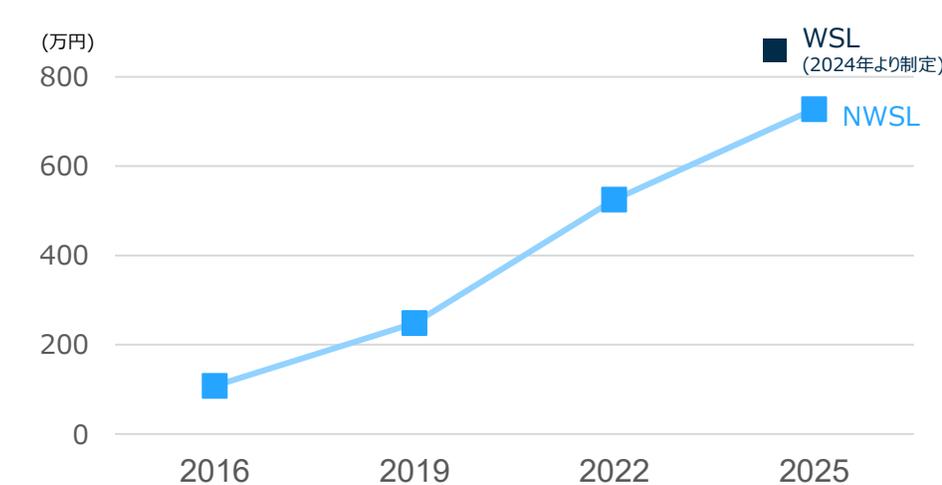
- NWSL・WSLは投資と収益拡大により、全選手が生活基盤を確保し「プロ専念」が可能な水準に到達。一方で、Liga FやWEリーグは最低年俵制度を導入しているものの、その水準や適用範囲の限定性から、全ての選手に完全なプロフェッショナルとしての環境を提供する途上にある。

最低年俵金額



出所：各リーグ規定を基に当社作成

最低年俵の推移 (NWSL・WSL)



出所：各リーグ規定を基に当社作成

### Key Insights

WEリーグのA契約の最低年俵(460万円)はNWSL・WSLの最低年俵と比較すると約1.7倍の開きがあるが、為替・物価差を考慮するとおおよそ同等の水準と言える。そのため、A契約に達していないB・C契約の選手を含む、全選手の年俵水準の底上げが喫緊の課題となっている。

# 2

## サラリーキャップ制度： 戦力均衡重視のアメリカ型と、積極投資を可能にする欧州型

- 自国リーグを盛り上げるには戦力が拮抗するアメリカ型が優れている一方、国際大会で勝つことや、世界の優秀な人材を惹きつける点では、格差を容認してでもトップを伸ばす欧州型が適している。近年NWSLからWSLへの人材流出が頻発しており、急速に国際化が進む女子サッカー界を牽引してきたアメリカのリーグモデルが過渡期を迎えている。

各リーグのサラリーキャップ制度			メリット	デメリット
固定上限あり	キャップ制	NWSL 基本的に\$3.3M(約5億円)まで	<b>戦力均衡</b> 直近6年間のレギュラーシーズン優勝クラブは全て別のクラブ	<b>人材流出</b> 2024年よりスター選手のWSLへの移籍が相次ぐ
	収益連動制	WSL クラブの関連収益の80%まで		
固定上限なし	制限なし	Liga F 予想収入から構造的経費と負債返済を除いた金額まで	<b>優秀な人材の獲得、国際大会での上位進出</b> 特にスペイン・ドイツはリーグ規模でアメリカ・イングランドに劣るものの、国内トップクラブの積極投資によって優秀な選手が国内に留まる。UWCLでも上位に進出。	<b>格差拡大、上位クラブの固定化</b> 欧州では近年国内リーグで優勝するクラブが固定化されている <ul style="list-style-type: none"> <li>WSL: チェルシー→6連覇中</li> <li>Liga F: FCバルセロナ→6連覇中</li> <li>Frauen-Bundesliga: バイエルンミュンヘン→3連覇中</li> </ul>
	制限なし	Frauen-Bundesliga 規定なし		
	制限なし	WEリーグ 規定なし		

### Key Insights

現在の日本が置かれた環境を踏まえると、代表選手の流出阻止や、ACL優勝やその先のクラブワールドカップで好成績を残すためにも、上位クラブが更に伸びることが望ましいと言える。現状制度面の制約はないため、投資を呼び込むことを含め、強化予算の増額につながるビジネス施策が求められる。

## 参考情報：

# NWSLのサラリーキャップ制度と人材流出阻止の取組

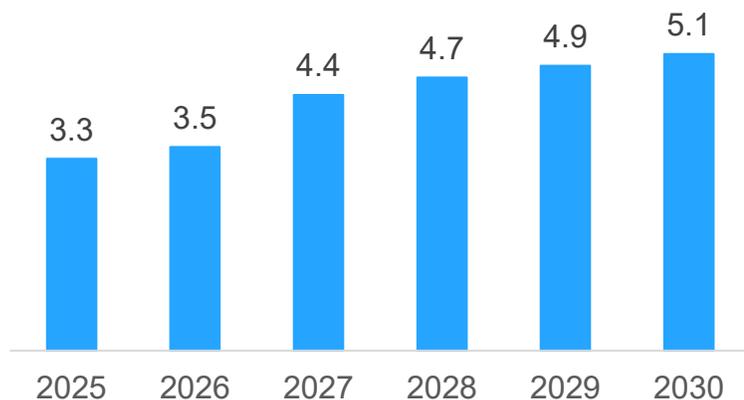
- NWSLはこれまで自国リーグの戦力拮抗を維持するために、厳格なサラリーキャップ制度を運用してきたが、近年選手獲得に積極投資を行う欧州クラブに人材が流出するといった課題が発生している。対抗策としてNWSLはHIP(ハイ・インパクト・プレーヤー)ルールを2026年から導入することを決定した。
- 2026年1月にはワシントン・スピリットがHIPルールを活用し、アメリカ代表のトリニティー・ロッドマンと新たな契約を締結した。これはHIPルールを活用した初の事例であり、同選手の年俵は女子サッカー選手として史上最高額の200万ドル(約3.1億円\*)と報じられている。

### サラリーキャップ制度

- **ルール概要：**NWSLはチームの選手給与総額上限を330万ドルと定めている。収益連動分を含めると実質約350万ドルまで使用可能で、今後はCBA(団体労働協約)に基づき段階的な引き上げが計画されている。

### サラリーキャップの増額計画

(単位：百万ドル)



### HIP(ハイ・インパクト・プレーヤー)ルール

- **ルール概要：**各クラブは、リーグが定めたサラリーキャップを、ハイインパクトプレーヤーに対して最大100万ドルまで超過することが可能。この上限額は、サラリーキャップと同じ基本レートで毎年増加。この追加配分は、単一の選手に適用することも、複数の選手に配分することもできる。

#### 以下のいずれかを満たしていることが、ハイインパクトプレーヤーの条件

- 現行リーグシーズン開始前の直近1年以内に SportsPro Media「最も市場価値の高いアスリート Top150」に選出されていること。
- 現行リーグシーズン開始前の直近2年以内に バロンドール投票でトップ30 に選出されていること。
- 直近2年以内に The Guardian「世界トップ100選手」ランキングのトップ40 に選出されていること。
- 直近2年以内に ESPN FC「世界トップ50選手」ランキングのトップ40 に選出されていること。
- (フィールドプレーヤーの場合) 直近2年における全公式戦を通じた 米国女子代表での出場時間が上位11位以内 であること。
- (ゴールキーパーの場合) 直近2年における全公式戦を通じた米国女子代表での出場時間が上位1位 であること。
- 直近2シーズン以内に NWSL MVPファイナリスト に選出されていること。
- 直近2シーズン以内に NWSL年間ベストイレブン (ファーストチーム) に選出されていること。

# 3

## 育成制度： アメリカも欧州型のクラブ主導選手育成システムに移行中

- 欧州各国では以前からクラブ主導の選手育成が定着していたが、これまで主にカレッジが育成主体だったアメリカでもNWSLクラブによる育成が主流になりつつある。18歳から21歳までのポストユース層の受け皿は、プロクラブ専用のクローズドリーグを採用する国と、既存のオープンリーグの下位ディビジョンを活用する国で、戦略的な差異が生じている。

選手育成アカデミー		ポストユースの試合環境	
NWSL	大学→ <u>アカデミー整備へ</u>	NWSL	<u>クローズドリーグ発足へ</u> プロクラブのBチームだけの育成リーグ* <sub>1</sub>
WSL	アカデミー保有 (U-10から21までの一貫体制が義務)	WSL	クローズドリーグ プロクラブのBチームだけの育成リーグ* <sub>2</sub>
Liga F	アカデミー保有 (義務ではないがほぼ全クラブが保有)	Liga F	オープンリーグ Bチームが、昇降格のある下位のディビジョン (2部、3部など)に所属
Frauen-Bundesliga	アカデミー保有 (U-20,17が義務)	Frauen-Bundesliga	
WEリーグ	アカデミー保有 (U-18,15が義務)	WEリーグ	取組無し→大学などが受け皿

\*アメリカは2026年8クラブで開始予定  
\*イングランドは今年、Bチームのオープンリーグ参戦を検討したが、実現はしなかった

### Key Insights

Bチーム保有は財政的負荷が大きいが、現行の「育成型期限付き移籍」や「特別指定選手制度」を最大活用すれば、ポストユース年代の実戦機会確保は十分に可能。欧米の模倣ではなく、大学サッカー等の国内資産を組み込んだ**独自の育成パスウェイを深化・接続させる**ことが、日本の国際競争力を高める現実的な指針と言える。

## 4

## 詳細データ： 選手契約・待遇に関する制度

- NWSLやWSLは、CBAやFAとの協定に基づき、最低年俸をWEリーグの約1.7倍の水準に設定している。加えて、全選手に対する出産時の給与全額保証や長期負傷補償を義務化し、働く女性アスリートのキャリアの安定性を制度的に確立している。この「保証の深さ」こそが、グローバルな人材獲得競争における欧米リーグの圧倒的な競争優位性となっている。

リーグ	最低年俸 (2024/25)	給与保証の適用範囲	マタニティ/産休中の給与保証	長期負傷時の給与保証	根拠となる主な制度
アメリカ NWSL	\$48,500 (約740万円)	全登録選手に適用	給与の100%保証	CBAによる保証規定あり	集团的労働協約 (CBA)
イングランド WSL	£42,500 (約833万円)	23歳以上のシニア選手に適用 *23歳未満も最低賃金以上	給与の100%保証	最初の18か月は基本給100%、 それ以降は50%保証	FAライセンス要件 FAと選手協会間協定
スペイン Liga F	€22,500 (約380万円)	全プロ契約選手に適用	給与の100%保証	全期間100%保証	集団協約 (Convenio Colectivo)
ドイツ Frauen-Bundesliga	規定なし	-	給与の2/3以上	規約上の統一基準なし	DFBライセンス要件、規定
日本 WEリーグ	270万円 (A契約は460万円)	全プロ契約選手に適用	給与の2/3以上	規約上の統一基準なし	WEリーグ規約
FIFA (参考)	規定なし	-	給与の2/3以上	規約上の統一基準なし	FIFA選手身分・移籍に 関する規則 (RSTP)

# 5

## 詳細データ： チーム編成に関する制度

- リーグの魅力は「予測不能な順位争い」と「世界最高峰のプレー」のバランスにある。NWSLは厳格なハードキャップで戦力均衡を強制し、WSLやLiga Fは収益連動型の制限でビッグクラブの投資による「突出」を容認する。これは欧州にはUEFA Women’s Champions Leagueがあり、各国のトップクラブ同士で競っていることも影響している。

リーグ	戦力均衡策 (サラリーキャップ等)	人材獲得メカニズム (若手)	外国籍枠 (International Slots)	戦力拮抗指標*1
アメリカ NWSL	ハード・サラリーキャップ 上限: \$3.3M (約5億円, 2025年) ※超過不可、収益連動で上昇	ドラフト廃止 (2024年～) 完全なフリーエージェント制へ移行 ※以前はドラフトが均衡の象徴だった	7枠 (トレード可能) ※枠自体を資産として売買できるのが特徴	0.16
イングランド WSL	ソフト・サラリーキャップ (財務持続可能性規則 FSR) 上限: 収益の80% + オーナー補填	ホームグロウン (HG) 制度 登録25名中 8名 以上のHG選手義務 ※アカデミー育成を促進	GBE (ポイント制労働許可) 人数制限なしだが、代表歴など「質」の基準を満たす必要がある	0.29
スペイン Liga F	スクワッド・コスト・リミット (LCPD: 収入に基づく支出制限) クラブごとの収益力に応じた上限設定	補償金リスト (Compensation List) U23選手の国内移籍時に育成補償金を設定 ※カンテラ(下部組織)重視	5枠 (非EU選手) ベンチ入り5名、ピッチ上4名まで ※EU圏内選手は無制限	0.24
ドイツ Frauen-Bundesliga	規定なし (ライセンス要件のみ) 健全経営義務はあるが、年俸総額の上限はない	ローカルプレーヤー・ルール 登録選手中に 12名 のドイツ人(または育成選手)義務	制限なし (実質) 労働許可が下りれば制限なし ※EU圏内選手は無制限	0.28
日本 WEリーグ	規定なし プロA契約枠(25名)による間接的な管理のみ	アカデミー昇格 / 自由獲得 育成組織保有義務あり	5枠 登録無制限	0.24

\*1 『From High-Usage to Underload: A Tale of Two Industries』(FIFPRO)より。数字が小さいほど戦力が拮抗している

## 詳細データ： 育成に関する制度

- 欧州強豪国はBチームの成人リーグ参戦（オープン型）により、若手が早期にプロの強度に適應する環境を確立している。一方、NWSLはドラフト廃止を経てクラブ主導の育成へ急旋回し、リザーブリーグ創設に動く。

リーグ	育成リーグの構造(18歳以上の受け皿)	育成組織の保有義務(18歳以下・アカデミー)	若手登用の促進規定(トップチーム登録ルール)	移籍・契約の規定(若手保護・流動性)
アメリカ NWSL	計画中(クローズド型) 2026年よりリザーブチームによる新リーグ(Division II)を発足予定。※現在は空白地帯。	義務なし(移行期)大学(NCAA)依存から脱却中。 クラブ主導のアカデミー設立を推奨。	U-18 エントリー制度18歳未満の選手を最大4名 までプロ契約または練習生として登録可能。	ドラフト廃止 → 自由化2024年にドラフトを廃止し、 完全自由競争へ。※育成補償金制度はなし
イングランド WSL	クローズド型「PGAアカデミーリーグ(U21)」 ※Bチームの下部リーグ参入計画は2025年に検 討されたが実現は見送られた。	義務化(2025/26～)ライセンス要件として「プロゲ ーム・アカデミー(PGA)」の保有を義務付け。	ホームグロウン(HG)枠登録25名中、8名は自国 (協会内)で3年以上育成された選手である義務。	補償金制度あり。 24歳未満のフリー移籍時に育成補償金が発生。
スペイン Liga F	オープン型(主流) Bチームが2部・3部リーグに参戦可能。 ※トップチームとの対戦(1部昇格)は不可。	義務なし(慣習)ライセンス上の厳格な義務ではな いが、ほぼ全クラブがカンテラ(下部組織)を保有。	ただしBチーム登録選手のトップチーム出場(昇格) は柔軟に認められる。	補償金制度あり。 23歳未満の選手の移籍時に、補償金が発生。 補償金が高額で国内移籍が実質的に困難になり、 海外流出が問題化。制度見直しの議論あり。
ドイツ Frauen- Bundesliga	オープン型(主流) IIチーム(Bチーム)が2部リーグ等に参戦可能。 ※トップチームとの対戦(1部昇格)は不可。	厳格な義務「パフォーマンスセンター (Leistungszentren)」としてU20/U17チーム保 有が必須。	ローカルプレーヤー枠登録選手 12名 のドイツ人 (または育成選手)を含む義務。	トレーニング補償金制度は現状無し
日本 WEリーグ	混合型 / 未整備公式なサテライトリーグはない。 主戦場はU18リーグ。 ※大学の女子サッカーチームが18歳以上選手の受 け皿として機能	厳格な義務U18, U15, チームの保有を義務付け。	育成組織トップ可、JFA・WEリーグ特別指定選手 制度 下部組織の選手や、大学チームに所属する選手を トップチームの試合に出場可能にする制度。	補償金制度あり。 23歳以下のプロ選手の移籍時、または25歳以下 の選手の初めてのプロ契約時に発生。

# 7

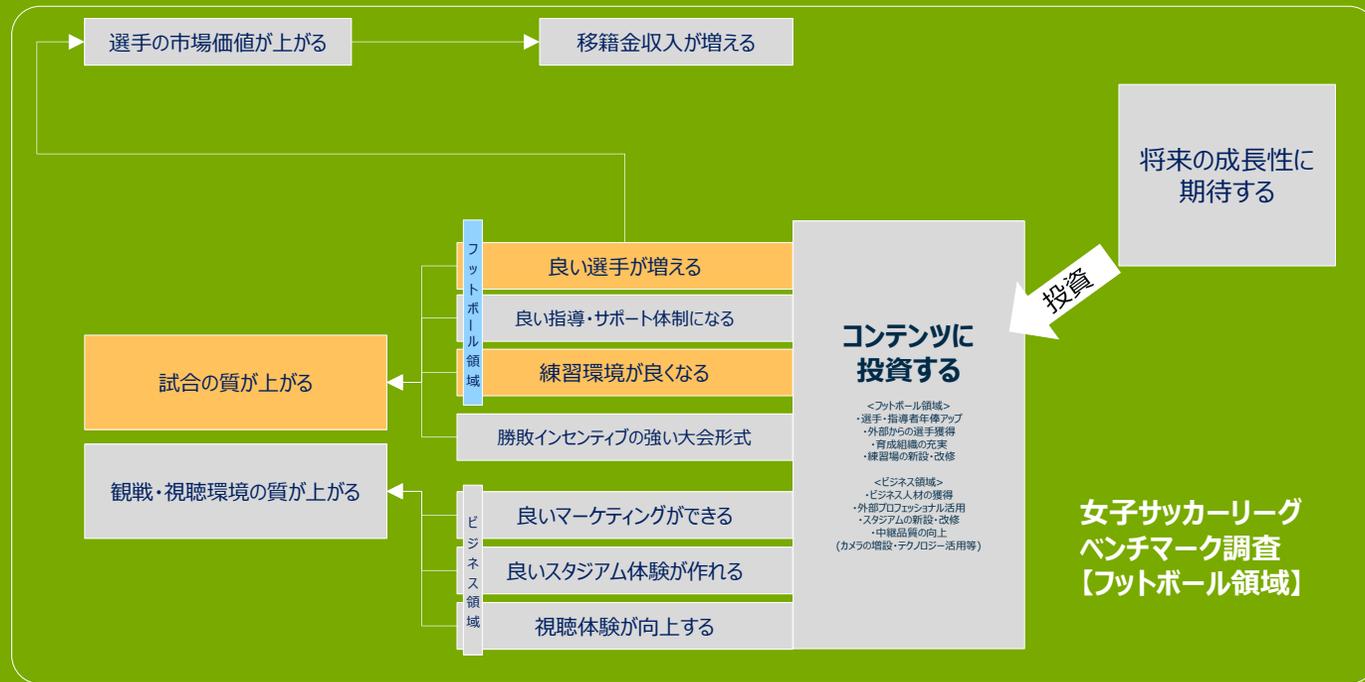
## 詳細データ： コーチングスタッフに関する制度

- リーグの質は、選手だけでなく「指導者の質」と「サポート体制」で決まる。欧州3大リーグ（英・独・西）は、監督に「UEFA Pro」を義務付け、スタッフのフルタイム雇用をライセンス要件とすることで、競技環境を高度に専門化させている。

リーグ	監督 (Head Coach) 必須ライセンス	アシスタントコーチ 必須ライセンス	専門スタッフの 雇用義務 (フルタイム等)
アメリカ NWSL	リーグが定めるコーチライセンス基準を遵守 (ライセンス基準は非公開だが、実態としてUSSF Pro License, UEFA A, PRO License保有者が監督として活動)	リーグが定めるコーチライセンス基準を遵守	フルタイム・最低人数の規定 (CBAで) フルタイムでのアスレチックトレーナー、理学療法士などの配置を義務化。それぞれの最低人数も規定。
イングランド WSL	UEFA Pro	UEFA A 以上	厳格なフルタイム義務 GM、ドクター、理学療法士、マーケティング等の専任配置が必須。
スペイン Liga F	UEFA Pro	UEFA A / Nivel 2 以上	配置義務あり ドクターをすべての試合、トレーニングに帯同させる義務あり。
ドイツ Frauen-Bundesliga	UEFA Pro	UEFA A ※GKコーチはGKの上級コース修了者。	フルタイムor外部専門家との提携 フルタイムでのアスレチックトレーナー、理学療法士などの配置を義務化。
日本 WEリーグ	JFA Pro	JFA B級 以上 ※GKコーチはGKレベル1以上。	配置義務あり ドクター、トレーナー等の配置義務はあり。

# 3.各国のリーグ・クラブの経営実態

対象リーグの経営実態を定量的に分析し、日本国内の現状との乖離を明確化する。主要リーグ間における人材獲得競争の激化に焦点を当て、その動向を解明するとともに、競技価値の根幹をなすインフラ（練習環境）の整備状況についても、諸外国の実態を分析する。



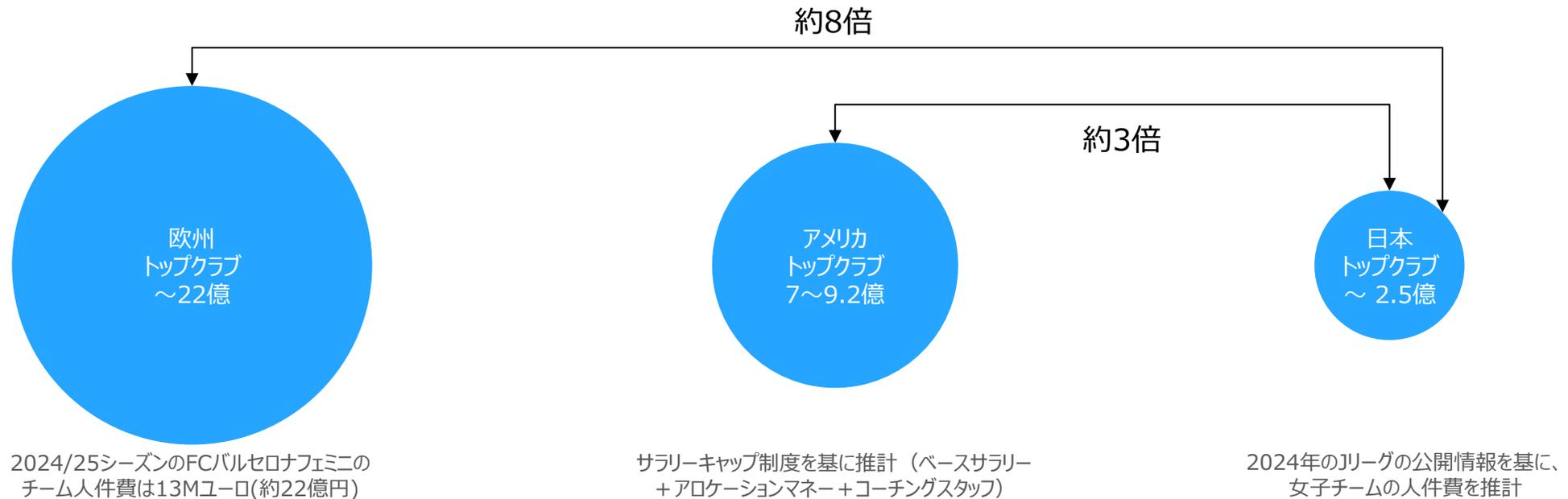
EVOLVING  
SPORTS  
INTO  
INDUSTRY

SKYLIGHT  
Sports

## 1

## 世界と日本との差： 日本と欧州トップクラブのチーム人件費に8倍の開き

- 現在、チーム人件費において日本と欧州トップクラブのチームの間には約8倍もの差が存在する。アメリカのトップクラブとの差は約3倍であるが、アメリカは今後サラリーキャップの金額を段階的に上げていくため、日本が成長しないと差は更に広がっていく。



### Key Insights

欧州トップクラブとの8倍もの**資金差は、そのまま「競技力の差」に直結**する。2028年よりFIFA女子クラブワールドカップが始まるが、世界のトップレベルのクラブと伍して戦うためには、**ビジネス面での成長が不可欠**。収益を増やして投資を拡大する好循環を作り、世界と戦える基盤を整えることが急務と言える。

# 2

## 自国選手の海外流出問題： 近年スペイン・ドイツで自国選手の海外流出が問題化

- アメリカ・イングランドを中心とした積極投資により、ドイツやスペインの主力選手の海外流出問題が顕在化している。現状は国内ビッグクラブの存在が流出を食い止めているものの、このままリーグ規模の差が拡大すれば、将来的に選手の流動性が高まり、さらなる流出増加の懸念がある。

主力選手の海外流出事例

スペイン代表	
• エスター・ゴンザレス	✓ レアル・マドリッド→ゴッサムFC(2023年)
• マリオナ・カルデンティ	✓ FCバルセロナ→アーセナル(2024年)
• オルガ・カルモナ	✓ レアル・マドリッド→パリ・サンジェルマン(2025年)

ドイツ代表	
• シュエケ・ニウスケン	✓ アイントラハト・フランクフルト→チェルシー(2023年)
• ユール・ブランド	✓ VfLヴォルフスブルク→オリンピック・リヨン (2025年)
• シドニー・ローマン	✓ バイエルン・ミュンヘン→マンチェスター・シティ (2025年)

代表選手の所属クラブ



出所：2025年11月の招集リストを基に当社作成

### Key Insights

スペインやドイツの事例が示す通り、リーグ全体の底上げだけでなく、**国内トップクラブを戦略的に伸ばす**視点が重要。欧米以外の成功例であるメキシコのティグレスのように、世界と渡り合える「象徴的なクラブ」の存在は、有望な選手を惹きつける引力となるだけでなく、リーグ全体のブランディングにも寄与する。

# 3

## トレーニング施設への投資状況： リソースの源泉に基づく3つの整備モデル

- 米国（NWSL）は、投資家資金を投じて「女子専用施設」を建設する動きが顕著で、ハード面における“自律性”をリーグの競争力として打ち出している。一方で、欧州ではビッグクラブは男子チームの巨額収益を背景とした「施設共有」で最高水準を確保し、中堅クラブは政府やリーグの「助成金」を原資にプロ基準へ適合させている。

### ①NWSLクラブ

女子チームに特化した施設をゼロから構築

**事例：カンザスシティ**

- 2022年に、約1,800万ドル(約28億円)を投じ、NWSL初の女子専用トレーニング施設を建設
- オーナー資金による民間投資で、天然芝2面と人工芝1面、最先端のトレーニング・リハビリ設備を備える

強み：独自の設計、投資計画を立てられる  
課題：膨大な初期投資額と、回収プレッシャー

### ②欧州ビッグクラブ

世界最高の施設をOne Clubとして共有

**事例：マンチェスター・シティ**

- エティハドキャンパス内に1,000万ポンド(約20億円)を投じて、女子専用トレーニング施設を新設
- 最新ジムやリハビリ設備を備え、2025/26シーズンに完成予定

強み：最高品質の施設・サポートが受けられる  
課題：投資計画が男子の経営状況に依存

### ③欧州中堅クラブ

プロライセンス基準を満たすため、既存施設を改修

**事例：Liga Fクラブ**

- CSD（国家スポーツ委員会）から、各クラブへ練習場などのインフラ改善に総額1,600万ユーロ（約27億円）を配分
- 国内中堅クラブや、マドリードCFF等の女子独立クラブが多く分配されており、芝や施設改修に活用

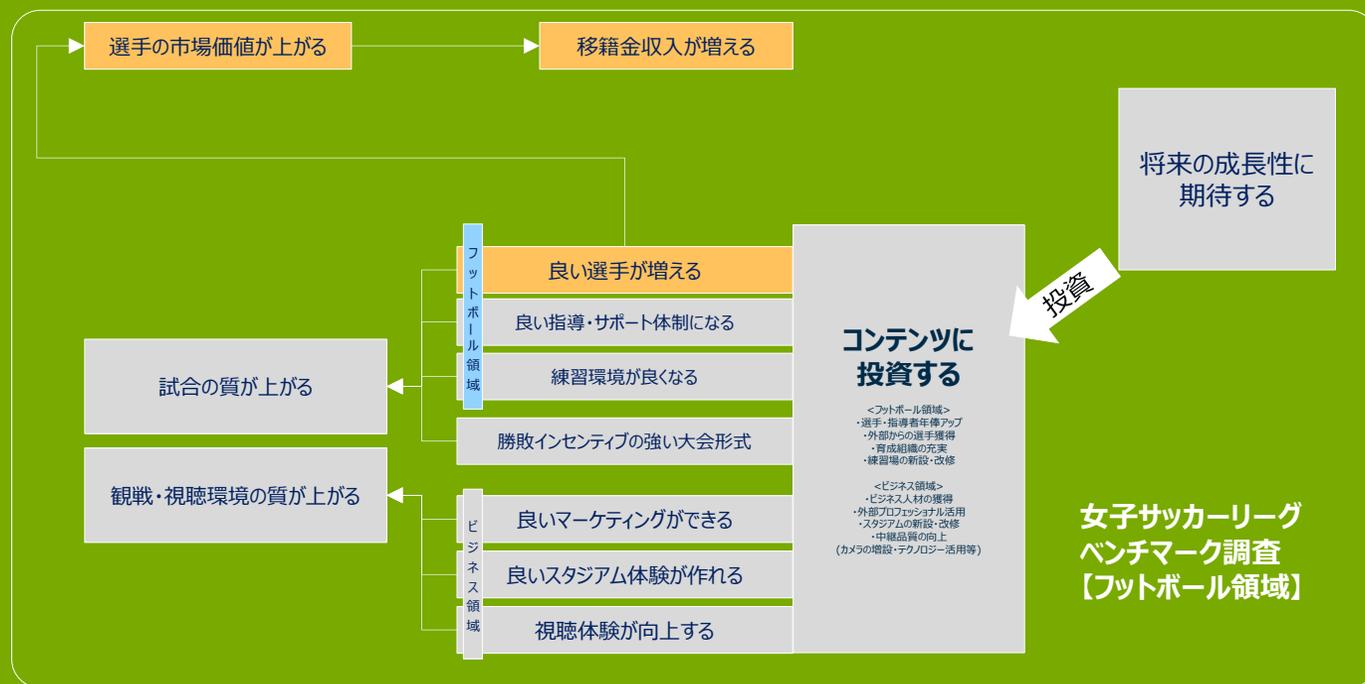
強み：公的支援により経営規模以上の施設整備が可能  
課題：助成終了後の維持費、拡張性

**Key Insights**

トレーニング施設は、チームのパフォーマンス向上に直結するだけでなく、**国際的な選手獲得競争にも大きく影響を与えるファクター**となっている。海外主要クラブは多額の投資を行い環境が改善されてきているため、日本も優秀な選手を惹きつけるには、待遇だけでなく**充実したトレーニング施設を持つことが必要**となる。

# 4. 国際移籍市場のトレンド

女子サッカー界における移籍市場の形成は顕著であり、今後も市場規模の拡大トレンドは継続するものと予測される。国際的な市場動向を多角的に検証することで、グローバルな文脈における日本の現在地を特定し、今後の課題を考察する。



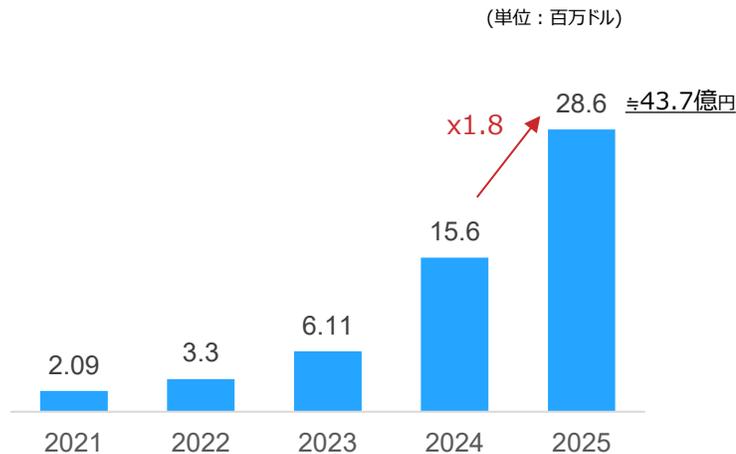
EVOLVING  
SPORTS  
INTO  
INDUSTRY

SKYLIGHT  
Sports

## 女子サッカー市場全体の拡大に伴い、移籍金市場も増加傾向が続く

- 女子サッカーの国際移籍市場は急速に拡大しており、男子市場と同様に移籍金に伴う移籍の割合も増加している。これはリーグ収益の増大と選手の高価値化を反映している。今後も女子サッカー市場全体の成長に牽引され、移籍市場は継続的に伸びる見込みである。

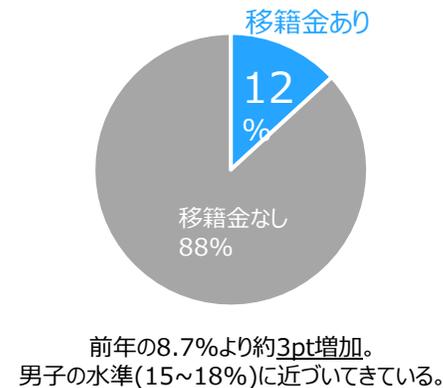
国際移籍の移籍金総額



出所：Transfer Report(FIFA)を基に当社作成

移籍金を伴う国際移籍件数

2025年(全世界)



出所：Transfer Report(FIFA)を基に当社作成

今後の成長要因

## NWSLのサラリーキャップ増

2025年:3.3Mドル→2030年:5.1Mドル

## NWSLのエクспанション計画

2025年:14クラブ→2030年頃:20クラブ  
(2028年に17クラブ目が参入することは決定)

## 欧州市場の成長

欧州大会の規模拡大などで、クラブ投資増

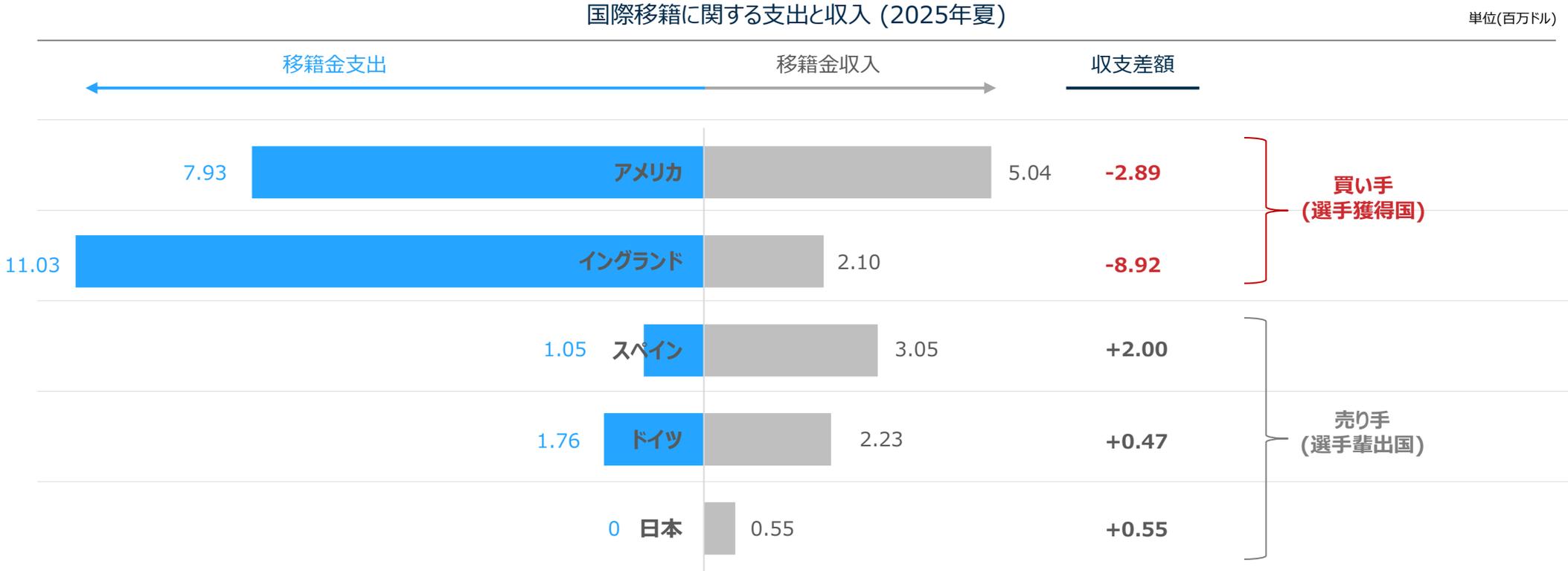
## Key Insights

急成長を見せる女子サッカー界でも、移籍金市場が構築され始めてきた。これにより各クラブが投資・回収のサイクルを意識する行動をとるようになり、更に移籍金の水準が引き上げられてきている。このグローバルで起きている移籍エコシステム拡大の中に、日本も組み込まれていることを意識し、戦略的に選手の育成・獲得・売却をしていくことが求められる。

# 2

## 主要国の動向①： アメリカ・イングランドが多額の費用を市場に投下

- 現在、女子サッカーの国際移籍市場において、アメリカとイングランドが純粋な買い手（移籍金収支マイナス）として投資を牽引している。対して、ドイツ、スペインは売り手（移籍金収支プラス）の立場。国際移籍市場において、日本は他国に比べ動きが少ない状況。



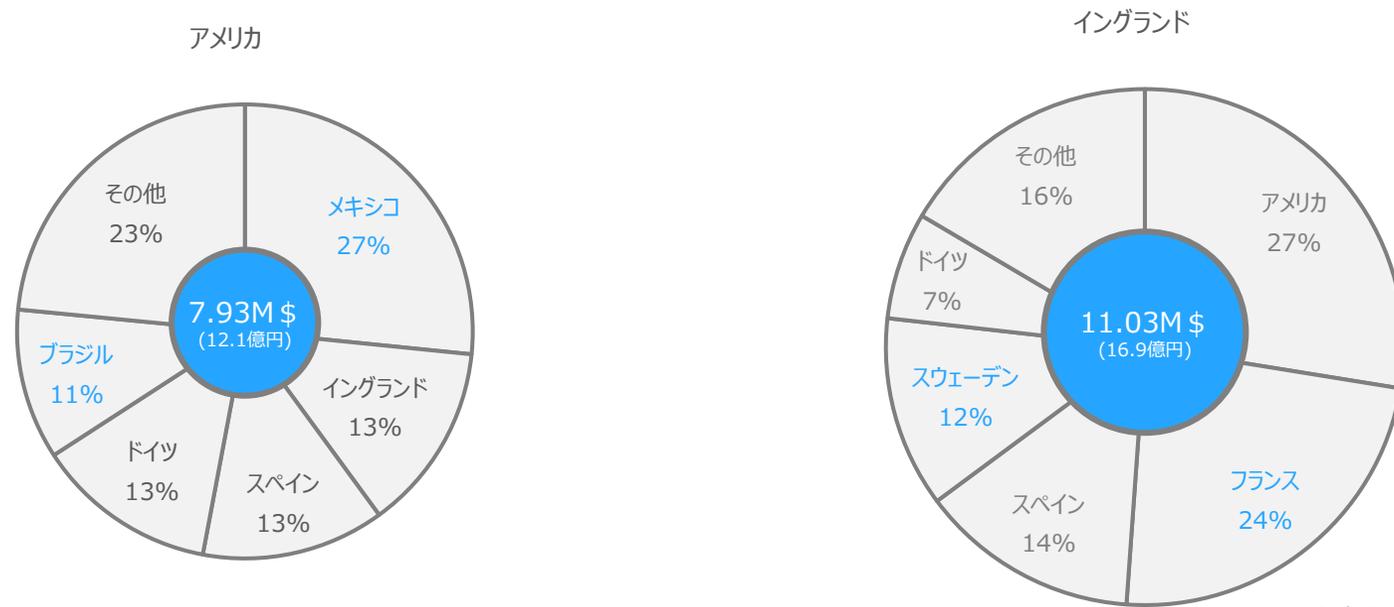
出所：Transfer Report(FIFA)を基に当社作成

# 2

## 主要国の動向②： アメリカ・イングランドの移籍金支出国は欧州主要リーグ

- 最大の移籍金支出国のアメリカ、イングランドの支出先は、今回分析対象とした主要リーグの他、アメリカではメキシコやブラジル、イングランドではフランスやスウェーデンといった同じ/近い大陸のクラブが入っている。

移籍金支出先(2025年夏)



出所：Transfer Report(FIFA)を基に当社作成

### Key Insights

今後もアメリカ・イングランドの両国が移籍市場の拡大を牽引していくと思われるため、**日本クラブが移籍金を獲得することを狙うならば、必然的にこの両国に直接選手を輩出することが必要**になってくる。両国とは物理的に距離が離れているものの、リーグの国際的なプレゼンスを高めていくことで選手の価値も上がっていくと思われる。

# 3

## 日本クラブにとっての機会： 移籍金収入を得られれば、育成への再投資サイクルを確立できる可能性

- アメリカ、イングランドに加え、フランスもリヨンやパリ・サンジェルマンの影響によって移籍金支出が多い国である。日本の国内クラブからこうした国々に選手を直接輩出し、移籍金収入を得ることができれば、男子のベルギーやポルトガルのような「タレント輸出」を核とした自立的なクラブ経営モデルが構築される可能性もある。

	移籍金支出相場				国内クラブの 売上に占める 割合	類似の モデル
	アメリカ	イングランド	フランス			
選手1人 あたりの平均	約4,000万円	約2,000万円	約2,500万円	▶▶▶	約10~20%	ポルトガル・ベルギーの中堅クラブ
最大	約2.3億円	約2.8億円	約1.5億円	▶▶▶	約50%~	ビッグクラブに直接、高価値な選手を 輩出するクラブ(ベンフィカなど)

### Key Insights

WEリーグからアメリカ・イングランド・フランスの一部クラブに**直接移籍をすれば、経営に大きなインパクト**を与える。そのためには、各選手が実力をつけることはもちろん、WEリーグがショーケースとして機能することや、クラブが戦略的な強化計画のもとチーム編成・選手契約を行うことが必要となってくる。

## 高額事例のトレンド： 将来価値を見越した若手への積極投資がトレンド

- 過去2年間で発生した高額な移籍金を伴う移籍の内、その多くが21歳以下の若手選手の移籍であった。これは移籍金市場が女子サッカーでも構築されてきたことによって、各クラブが選手の将来価値を見越した積極的な投資を行うようになったことが大きく影響している。

高額移籍金の移籍事例 (\*金額は報道ベース)

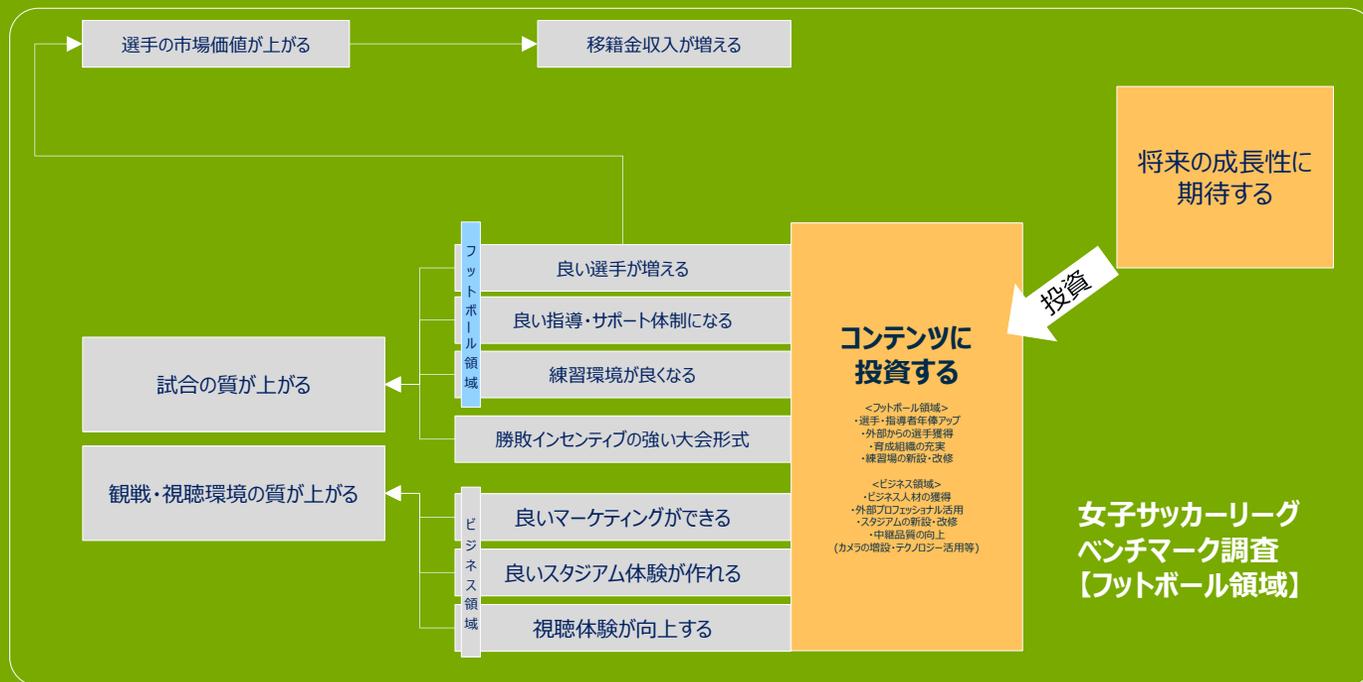
No.	選手名	国籍	ポジション	移籍時期	移籍時の年齢	所属元	移籍先	移籍金*
1	グレース・ゲヨロ	フランス	MF (CM)	2025年夏	28	パリ・サンジェルマン (フランス)	ロンドン・シティ・ライオネセス (イングランド)	2.8億円
2	リズベス・オバジェ	メキシコ	FW (WG)	2025年夏	25	ティグレスUANL (メキシコ)	オーランド・プライド (アメリカ)	2.3億円
3	アリッサ・トンプソン	アメリカ	FW (WG)	2025年夏	20	エンジェル・シティ (アメリカ)	チェルシー (イングランド)	2億円
4	オリヴィア・スミス	カナダ	MF/FW	2025年夏	20	リヴァプール (イングランド)	アーセナル (イングランド)	2億円
5	ナオミ・ガーマ	アメリカ	DF (CB)	2025年冬	24	サンディエゴ・ウェーブ(アメリカ)	チェルシー (イングランド)	1.7億円
6	タルシアーネ	ブラジル	DF (CB)	2025年冬	21	ヒューストン・ダッシュ(アメリカ)	リヨン (フランス)	1.5億円
7	サム・コフィー	アメリカ	MF (CM)	2026年冬	27	ポートランド・ソーンズFC (アメリカ)	マンチェスター・C (イングランド)	1.4億円
8	キーラ・ウォルシュ	イングランド	MF (DM)	2025年冬	27	バルセロナ (スペイン)	チェルシー (イングランド)	1.4億円
9	R. クンダナンジ	ザンビア	FW (ST)	2024年冬	23	マドリドCFF (スペイン)	ベイFC (アメリカ)	1.3億円
10	バルブラ・バンダ	ザンビア	FW (ST)	2024年冬	24	上海盛麗 (中国)	オーランド・プライド(アメリカ)	1.1億円
11	ルシア・コラレス	スペイン	DF/FW(WG)	2025年夏	19	バルセロナ(スペイン)	ロンドン・シティ・ライオネセス (イングランド)	9,100万円
12	リリー・ヨハネス	アメリカ	MF (CM)	2025年夏	18	アヤックス (オランダ)	リヨン (フランス)	7,600万円
13	プリシラ	ブラジル	FW (ST)	2024年夏	20	インテルナシオナル (ブラジル)	クラブ・アメリカ (メキシコ)	7,600万円
14	キカ・ナザレス	ポルトガル	MF/FW	2024年夏	21	ベンフィカ (ポルトガル)	バルセロナ (スペイン)	7,500万円
15	マイラ・ラミレス	コロンビア	FW (ST)	2024年冬	24	レバンテ (スペイン)	チェルシー (イングランド)	7,200万円

### Key Insights

欧米では、若手選手は**育成の対象ではなく将来収益を生む資産**と見られている。これを踏まえて日本人選手の価値を高めるためには、18～20歳で国際的に可視化し、長期契約で価値を保持したうえで売却前提の設計を行うことが重要である。有償移籍を成功事例として積み重ねることで、市場は日本人選手に価格を付け始める。

# 5. 各国の投資状況

現在の女子サッカー界は、スタートアップ企業に類するフェーズにある。単年の黒字化よりも将来的な成長を優先した先行投資が、ハード・ソフト両面での環境整備を加速させている。本分析では、諸外国の投資動向を概観し、フットボール戦略の背後で機能する投資メカニズムを明らかにする。



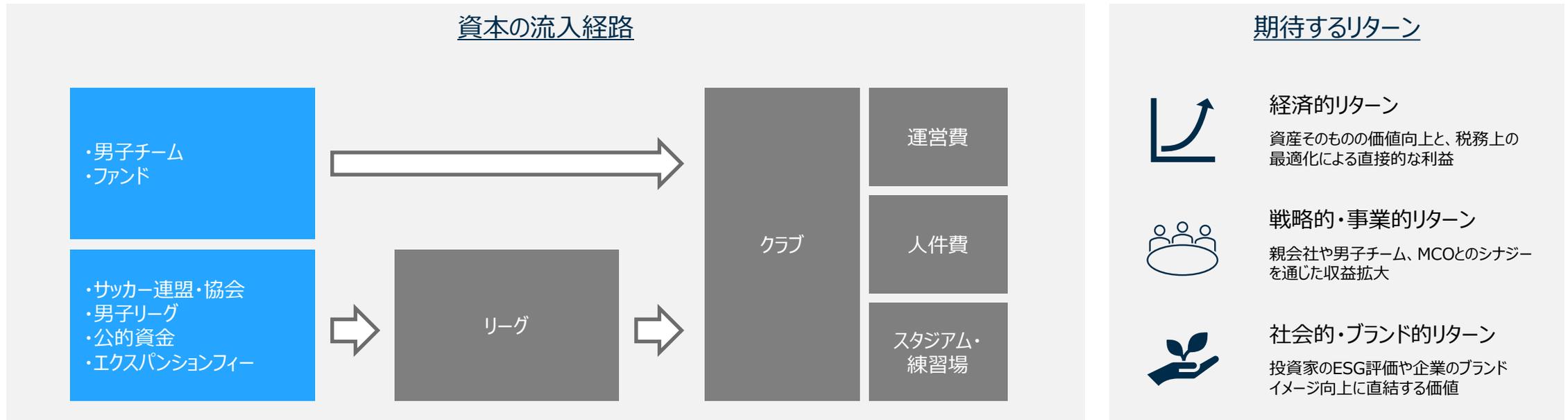
EVOLVING  
SPORTS  
INTO  
INDUSTRY

SKYLIGHT  
Sports

## 1

# リーグ・クラブへの投資スキーム： 資本の流入経路とリターンの構造

- 女子サッカーへの投資はクラブへの直接投資とリーグ経由の間接投資に大別され、投じられた資本は選手やスタジアム等へ充当され価値の源泉となる。各投資家は、資産価値向上による売却益やESG・ブランド価値の獲得、あるいは税制優遇や男子の財務規則下でのクラブ価値最大化など、独自の動機に基づきリターンを設計している。



## Key Insights

日本の状況を踏まえつつ、投資をより活性化させるためには、親会社とのシナジー創出など、**戦略的なリターンを丁寧に描く工夫が有効**。また、急速なグローバル化に対応するため、これまでの枠組みを大切にしつつも、外部からの投資を含めた**幅広い選択肢を柔軟に検討する余地は大きい**と言える。

## 現在の投資トレンドと主なプレーヤー リーグへの大規模投資と、クラブ買収の活発化

- 主要4市場では、女子サッカーを「独立した成長アセット」へ再定義する変革が加速している。アメリカはPE資本による価値向上、イングランドは運営主体の独立化、ドイツ・スペインは公的支援や男子リソースの戦略的活用を推進。

NWSL	PEファンド、 個人投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2025年現在の新規参入権（Expansion Fee）は約1.6億ドル（約244億円）に達し、数年で価値が数倍になる「高いキャピタルゲイン」が最大の魅力。昇降格がないため、投資した資本が下位リーグ転落によって毀損するリスクがゼロであり、中長期的な事業計画が立てやすい。</li> </ul>
WSL	男子リーグ、 PEファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 男子プレミアリーグがWSLに2千万ポンド(約39億円)の無利子融資を実行。</li> <li>• 近年、キニスカグループがロンドンシティ・ライオネス、Mercury13がブリストルシティの経営権を取得するなど、PEファンドによる買収や投資を受けるクラブが増えている。</li> </ul>
Liga F	政府系公的投資、 PEファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CSD（国家スポーツ委員会）を通じてリーグ発足から3年間で総額2千万ユーロ規模(約34億円)の公的資金が投入。用途は運営費やインフラ整備とされており、プロ化の初期投資を財政面から支援。</li> <li>• クラブレベルでは、欧州トップレベルの競技力を背景に、UWCL出場による収益と露出が投資家へのリターンとして注目を集めている。独立系クラブ（マドリードCFF等）も海外ファンドからの買収・提携候補として関心を寄せられている。</li> </ul>
Frauen- Bundesliga	サッカー連盟、 PEファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ドイツサッカー連盟(DFB)から独立した形のプロリーグ設立の議論が継続中。当初DFBが50%、加盟クラブが50%の株式を持つ形での新リーグ設立と、DFBによる1億ユーロ（約169億円）規模の8年間にわたる投資が検討されていたが、その後破談となった。</li> <li>• クラブレベルでは、米国のMonarch CollectiveがViktoria Berlin（2部）の38%の株式を取得。これはドイツ女子サッカー史上初の本格的な海外PE進出事例。</li> </ul>

### Key Insights

欧州ではすべてのリーグが数十億円規模の投資を受けて、**戦略的な成長分野に活用**している。日本と欧州では、現状の平均入場者数など主要なビジネス指標で大きな違いはないが、投資額の違いで今後大きな差が開くことにつながりかねない状況といえる。

## 6. 参考情報

**EVOLVING  
SPORTS  
INTO  
INDUSTRY**

**SKYLIGHT**  
Sports

## 参考情報①

1. National Women's Soccer League (2025), NWSL and NWSLPA Agree to Historic Collective Bargaining Agreement, NWSL <https://www.nwslsoccer.com/news/nwsl-and-nwslpa-agree-to-historic-collective-bargaining-agreement>
2. NWSL Players Association (2025), NWSL–NWSLPA Collective Bargaining Agreement (CBA), NWSLPA <https://www.nwslplayers.com/cba>
3. The Football Association (2024), Women's Super League Football Handbook, The FA <https://www.thefa.com/competitions/the-womens-super-league/handbook>
4. FIFPRO (2024), From High-Usage to Underload: A Tale of Two Industries, FIFPRO <https://fifpro.org/en/health/player-workload/from-high-usage-to-underload-a-tale-of-two-industries>
5. National Women's Soccer League (2025), NWSL Competition Manual 2025, NWSL <https://www.nwslsoccer.com/documents/competition-manual>
6. The Football Association (2024), Women's Super League Football Handbook – Competition Rules, The FA <https://www.thefa.com/competitions/the-womens-super-league/handbook>
7. The Football Association (2024), The FA Handbook, The FA <https://www.thefa.com/about-football-association/what-we-do/rules-and-regulations/the-fa-handbook>
8. The Football Association (2025), The Football Association Women's Players – Points Based System 2025/2026 Season, The FA <https://www.thefa.com/football-rules-governance/policies/points-based-system-womens-players>
9. Real Federación Española de Fútbol (RFEF) (2024), Normas Regulatoras y Bases de Competición del Campeonato Nacional de Liga de Primera División de Fútbol Femenino, RFEF <https://rfef.es/es/federacion/normativa-y-circulares>
10. El Partido de Manu (2024), La lista de compensación sigue siendo un dolor de cabeza, El Partido de Manu <https://elpartidodemanu.com/2024/09/20/la-lista-de-compensacion-sigue-siendo-un-dolor-de-cabeza/>
11. Deutscher Fußball-Bund (DFB) (2024), Statut Frauen-Bundesliga und 2. Frauen-Bundesliga, DFB <https://www.dfb.de/verbandsservice/statuten-ordnungen/>
12. Deutscher Fußball-Bund (DFB) (2024), DFB nimmt FIFA-Vorgaben zum Mutterschutz vollumfänglich in seine Statuten auf, DFB <https://www.dfb.de/news/dfb-nimmt-fifa-vorgaben-zum-mutterschutz-vollumfaenglich-in-seine-statuten-auf?>
13. Jabier Izquierdo (2025) El Barça Femenino supera los 20 millones de negocio y consolida su rentabilidad en 2024-2025, 2Playbook [https://www.2playbook.com/clubes/cuentas-fc-barcelona-dato-dato/barca-femenino-20-millones-negocio-consolida-rentabilidad-en-2024-2025\\_20259\\_102.html](https://www.2playbook.com/clubes/cuentas-fc-barcelona-dato-dato/barca-femenino-20-millones-negocio-consolida-rentabilidad-en-2024-2025_20259_102.html)
14. Jリーグ (2025) 『2024年度 J1 クラブ決算一覧』 [https://aboutj.jleague.jp/corporate/assets/pdf/club\\_info/j\\_kessan-2024.pdf](https://aboutj.jleague.jp/corporate/assets/pdf/club_info/j_kessan-2024.pdf)
15. Kansas City Current (2025), Kansas City Current Announces Groundbreaking of Riverside Stadium, Performance Center, and Pitch Expansion, Kansas City Current <https://www.kansascitycurrent.com/news/kansas-city-current-announces-groundbreaking-of-riverside-st>
16. Kansas City Current (2025), Stadium & Training Center – CPKC Stadium and Training Facility Overview, Kansas City Current <https://www.kansascitycurrent.com/stadium-%26-training-center>
17. J. Izquierdo / P. López (2022), De Madrid CFF a Barça: así queda el reparto de los 16 millones en ayudas al fútbol femenino profesional, 2Playbook [https://www.2playbook.com/clubes/madrid-cff-barca-queda-reparto-16-millones-ayudas-futfem-profesional\\_8238\\_102.html](https://www.2playbook.com/clubes/madrid-cff-barca-queda-reparto-16-millones-ayudas-futfem-profesional_8238_102.html)
18. 2Playbook (2022), CSD da luz verde a los 16 millones destinados a modernizar instalaciones de fútbol femenino, 2Playbook [https://www.2playbook.com/mas-deporte/csd-da-luz-verde-16-millones-destinados-modernizar-instalaciones-futbol-femenino\\_6934\\_102.html](https://www.2playbook.com/mas-deporte/csd-da-luz-verde-16-millones-destinados-modernizar-instalaciones-futbol-femenino_6934_102.html)

## 参考情報②

---

19. Manchester City (2025), Manchester City Women's training facility, Manchester City <https://www.mancity.com/citytv/womens/manchester-city-womens-training-facility-63877228>
20. FIFA (2025), Global transfer market hits new all-time highs in 2025 mid-year window, FIFA.com <https://inside.fifa.com/transfer-system/media-releases/global-transfer-market-new-all-time-highs-2025-mid-year-window>
21. FIFA (2025), Global Transfer Report 2025, INSIDE FIFA <https://inside.fifa.com/transfer-system/transfer-reports?tab=Women%27s+global+transfer+report+2025>
22. Goal (2025), Women's transfer record history: List of the most expensive players in women's football, Goal.com <https://www.goal.com/en/lists/women-s-transfer-record-history-list-most-expensive-players-women-s-football/blt0df0393298c2ee92>
23. Emily Keogh (2026), Man City sign USWNT's Sam Coffey from Portland Thorns, ESPN [https://www.espn.com/soccer/story/\\_/id/47608248/man-city-sign-uswnt-sam-coffey-portland-thorns](https://www.espn.com/soccer/story/_/id/47608248/man-city-sign-uswnt-sam-coffey-portland-thorns)
24. ESPN (2025), Mexico's Ovalle signs world-record deal with Orlando Pride to '27, ESPN [https://www.espn.co.uk/football/story/\\_/id/46037695/mexico-ovalle-signs-world-record-nwsl-deal-orlando-pride-2027](https://www.espn.co.uk/football/story/_/id/46037695/mexico-ovalle-signs-world-record-nwsl-deal-orlando-pride-2027)
25. SportsPro (2025), NWSL awards Atlanta expansion franchise for 'US\$165m', SportsPro <https://www.sportspro.com/news/nwsl-atlanta-expansion-franchise-amb-arthur-blank-november-2025/>
26. National Women's Soccer League (2025), NWSL officially awards 17th franchise to Atlanta, NWSLSoccer.com <https://www.nwslsoccer.com/news/nwsl-awards-expansion-franchise-to-atlanta>
27. Premier League (2024), Premier League supporting new era for women's professional football in England, PremierLeague.com <https://www.premierleague.com/en/news/4082450/premier-league-supporting-new-era-for-womens-professional-football-in-england>
28. CSD (2025), The Government of Spain consolidates its support for sports federations with an ordinary grant of EUR 60 million, CSD.gob.es <https://www.csd.gob.es/en/government-spain-consolidates-its-support-sports-federations-ordinary-grant-eur-60-million>
29. ESPN (2025), Women's Bundesliga breaks with German federation, ESPN [https://www.espn.com/soccer/story/\\_/id/47203508/womens-bundesliga-breaks-german-federation](https://www.espn.com/soccer/story/_/id/47203508/womens-bundesliga-breaks-german-federation)
30. Jeff Kassouf (2026), NWSL's Berman: Rodman deal is proof of concept for HIP rule, ESPN [https://www.espn.com/soccer/story/\\_/id/47707925/nwsl-jessica-berman-trinity-rodman-contract-hip-rule-washington](https://www.espn.com/soccer/story/_/id/47707925/nwsl-jessica-berman-trinity-rodman-contract-hip-rule-washington)

**SKYLIGHT Women's Sports  
Advisory**について

**EVOLVING  
SPORTS  
INTO  
INDUSTRY**

**SKYLIGHT**  
Sports

# サービス紹介

- 当社では、女子スポーツ特化のコンサルティングサービス「SKYLIGHT Women's Sports Advisory」を提供しております。グローバルな調査実績とネットワークを結集し、女子スポーツ市場の事業価値最大化を支援いたします。

## 提供サービス

### 戦略コンサルティング:

リーグ・クラブの収益化戦略の策定、ガバナンス構築、グローバル展開の支援

### スポンサーシップ・アクティベーション:

女子スポーツの権利を活用したブランディング・マーケティング戦略の立案・実行支援

### 投資アドバイザリー:

企業や投資家向けのデューデリジェンス（資産査定）、価値評価、マッチング支援

### オープンイノベーション:

女子スポーツを通じたDEI（多様性・公平性・包摂）の推進、新事業創出プラットフォームの設立・運営支援

# SKYLIGHT WOMEN'S SPORTS ADVISORY

## お問い合わせ

スカイライト コンサルティング株式会社  
担当：スポーツビジネスコンサルティンググループ  
E-mail：[sports@skylight.co.jp](mailto:sports@skylight.co.jp)